

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	シンポジウム(公募演題)
タイトル	機能強化型在宅医療支援診療所の発展について
日時	平成 25 年 3 月 31 日 9:00~12:00
会場	第 6 会議室
所属先	(社会医療法人) 大和会 (やまとかい)・在宅サポートセンター 村山大和診療所
共著者 (敬称略)	森 清
企画趣旨	<p>【目的】在宅医療の発展をさまたげている因子は、1) 医師一人で 24 時間管理の負担感、2) 多職種との連携、3) レスパイト入院を含める病院との連携の困難などである。「機能強化型」による医師の負担軽減は、ある程度見込めるが、訪問看護ステーションのサポートによる負担軽減の方が大きい。訪問看護ステーション看護師負担軽減もまた検討されるべきである。そのためにもヘルパーステーションや定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の拡充が求められる。当診療所は機能強化をはたしつつ、市民のニーズ・地域の必要を把握することが必要と考え、地域包括支援センターを 2 つ開設したので、その気づきとともに報告する。</p> <p>【方法】2011 年 4 月に、1) 2) 3) への対策を練りつつ、2012 年 4 月から地域包括支援センターを開設するべく委員会を設置し、市役所と交渉を開始した。福祉・介護・医療関係者に地域包括支援センターへの要望を受け付けた。</p> <p>【結果】地域からは「独居対策」、医療者からは「認知症への地域対策」が求められた。市役所からの公募を受け、2012 年 4 月「東大和市ほっと支援センターなんがい」と「武蔵村山市北部地域包括支援センター」を開設できた。虐待への対応・介護認定へのほかに、「独居・認知症の方への見まわり隊」の開設要望(受理)、近隣病院への「認知症・地域包括外来」の開設依頼(受け入れ)などを行うことができた。</p> <p>【考察】訪問診療を行う診療所は単に充実した訪問診療を行うことだけではなく、福祉・医療・介護事業所との連携を介した「まちづくり」への参画が求められていると思われた。</p>